

桃山学院 中長期ビジョン

・ 中長期ビジョンを示すにあたって (Mission Statement)

1. **学院の理念**
 - 我々が拠って立つところ -
2. **学院の使命**
 - 我々が自らの役割として担い、目標として掲げるもの -
3. **学院の基本姿勢**
 - 使命を果たすために我々が重視していること -
4. **現代社会における理念展開の重要性**
 - 何故、今、改めて我々の使命・役割とその基本姿勢を再認識して訴えようとするのか -

・ 基本構想 (Grand Vision)

1. **ビジョン策定の視点**
 - 我々に求められる在り方 -
2. **理念展開の基本方針**
 - あるべき姿への指針と課題の設定 -
3. **目標実現への基本枠組**
 - 目指すところに向けた取り組みの骨格 -

・ 取り組み計画 (Approach Plan)

1. **大学における取り組み**
 - 多様性への対応と特色強化、教育・研究の充実と新たな展開を求めて -
2. **高等学校における取り組み**
 - 社会に生きる意義を見出し、目指すところに至る力を養う教育の充実と展開 -
3. **法人の取り組み**
 - 各計画推進を支える基盤整備と総合展開の取り組み -

・ ビジョン実現に向かって

取り組み推進姿勢と経営目標

- 学院総体としての総合展開と持続性・発展性の確保 -

桃山学院 中長期ビジョン

「自由と愛の精神」に根ざし、共に考え行動する「世界の市民」の養成

・ 中長期ビジョンを示すにあたって (Mission Statement)

学院は、2009年に創立125周年の節目を迎えるにあたり、学院が目指すところとその実現に向けた全体構想を中長期ビジョンにとりまとめて内外に示すこととしました。

社会環境の変化は常に教育にもこれへの対応を求めてきましたが、とりわけ「大学全入時代」が間近に迫る今、各学校はその対応力を厳しく問われています。

これに対して我々は、単に変化に追従して対処するだけでなく、「教育が人を育て、人の思いと行動が社会を変える」との強い自覚をもち、過去から現在そして未来を広い視野で見通して、社会の負託に応えつつ自らが掲げる理念の目指すところに向かうことが重要だと考えています。

この認識に立って、まずここでは、学院総体が「何を」「如何に」社会に示し具現化しようとしているのかを、我々が掲げる「理念」と自らが認識する「社会的使命」に照らして明らかにします。

またこれと併せて、「なぜ今それが重要なのか」ということを現代社会の状況も踏まえて訴え、これにより自らの掲げる理念の確かさと独自の存在意義を内外に問いつつ、更なる一歩を進めます。

1. **学院の理念** (我々が拠って立つところ)

桃山学院が属している「聖公会」というキリスト教の教派は、16世紀のヘンリー8世の時代にローマ・カトリック教会からイングランド教会を分離独立させることによって成立しました。その際に公布された「十箇条」という文書には、プロテスタント的なものとカトリック的なものの両方を尊重する内容が記されています。即ち、「聖公会(アングリカ・チャーチ)」はカトリック教会からプロテスタント教会までを含む「ブロード・チャーチ」であり、カトリック教会とプロテスタント教会を結び合わせる「ブリッジ・チャーチ」の役割を担う教会でもあるのです。

このことは、互いの個性や文化・民族の違いを違いとして理解しながらも「多様性」を認め、互いに尊重し支え合うことで各々の特性を活かしつつ、すべてに通じる普遍的理念に基づき互いが連携して理想の実現に向かい発展する姿勢を示しています。そしてその「橋渡し」としての在り方は、我々が自己と社会との関わり方を求めるところと深く通じているのです。

この「聖公会」の精神によって生まれた本学院の学院章には、「SEQUIMINI ME」(我に従え)という言葉が刻まれています。これはイエス・キリストの最初の弟子となったアンデレが、イエスに出会った時に呼びかけられた言葉です。さて、それではアンデレは一体「何に」従ったのでしょうか？ もちろんそれは「イエス・キリストに」なのでしょうが、使徒パウロがこのようなことを書いています。「あなたがたは、自由を得るために召し出されたのです。ただ、この自由を、肉に罪を犯させる機会とせず、愛によって互いに仕えなさい。」(ガラテヤの信徒への手紙5章13節) アンデレは、そのような「自由と愛の精神」をもって生きることを自らの使命として選び、生涯を通してこれに従ったのでしょう。

自由には他者への愛と責任がともないます。「自由」とはひとりひとりの人格と主体性を尊重すること、「愛」とは互いに支えあいながら他者と共に生きることです。この「自由と愛の精神」は、たんにキリスト教の立場だけではなく、すべての人間が一致しうる普遍的な理念であり、人類共通の目標です。

人間のそのような可能性を开花させながら、高い理想をめざしてチャレンジしつづけていく。それこそが桃山学院の一世紀を超える伝統がめざそうとする「キリスト教精神」であり、その精神に基づき人格を陶冶し、これに従い行動する「世界の市民」への道を示して、一人ひとりの成長の芽を支え、これを社会に結実させてゆくことが本学院の理念なのです。

2. **学院の使命** (我々が自らの役割として担い、目標として掲げるもの)

❖ 「自由と愛の精神」に根ざした教育活動を通じ、国家や民族の違いを超えた「人類社会」の一員として共通の目標に向かって行動する「世界の市民」を養成します。これにより、人類の平和と国際社会・世界文化の発展に寄与することを本学院の使命と認識しています。



❖ この認識に基づき、学院で学ぶ者に以下の意識を涵養することが教育活動の基本目標です。

- ▶ 自らと他者の人格と主体性(個性と尊厳)を尊重し、互いに支えあいながら「共に生きる」意識。
- ▶ 自らを隣人や社会と繋ぐことで、地域・世代・文化・歴史を繋ぐ「橋渡しとしての自己」の意識。
- ▶ 自然と共に生きるものとして、これを保全して次世代に繋ぐための環境問題に対する意識。
- ▶ 人類共通の立場に立って世の中の問題を考え、自らの役割を自覚して行動する意識。



❖ これらの意識を身につけたうえで、更に理想の実現に向けた課題を解決するために必要となる「知識・技能・経験」を修得します。そのための「場」として学院は、教育・研究資源と「体験・交流・行動」を通じた育成システムを整備し、永続的・発展的に提供する役割を担います。

3. **学院の基本姿勢** (使命を果たすために我々が重視していること)

❖ 「キリスト教精神」に基づく「心身の発達に応じた教育」「人格の陶冶」のための基本姿勢

- ▶ 個々の持つ「賜物(外才)」を開花させるために、各々の違いを理解しながら、その多様性を大切にします。
- ▶ 本人の決断を尊重して責任感と自律性を育て、一人一人の自発性を大切にして各々の自立を支援します。
- ▶ 交わりの中で磨かれた個々の特性が社会貢献 寄与の形で結実するよう、参画と奉仕の観点を大切にします。
- ▶ 社会の負託と学ぶ者のニーズに応えるため、時代の変化を的確に捉えて教育に反映する姿勢を大切にします。
- ▶ 時代の流れをリードできる人材育成のため、豊かな精神と幅広い教養に支えられた専門性を大切にします。

❖ 自分をみつめ、他者と交わり、深く考え、広く行動する「世界の市民」養成のための基本姿勢

- ▶ まだ見えない自己の可能性を広げるために、新たな挑戦を通して成長するエネルギーが必要です。学院は、学生・生徒の挑戦に応える教育環境を整えます。
- ▶ いろいろな学びを見つけ、手にし、活かすために、世界を見渡す国際的な視点・考え方が必要です。学院は、広い視野と豊かな国際性を育む教育を推進してゆきます。
- ▶ 将来への夢や憧れを叶えるべく自分が進む道を見出すために、自ら行動することが必要です。学院は、学生・生徒自らが、思い描く未来と出会うために積極的に行動できる機会を提供します。

❖ 「学びの場」を永続的・発展的に提供するための基本姿勢

- ▶ 学問の自由を尊重し、自治を保証して自律性と民主的環境を保持します。
- ▶ 学院の一員としてその理念を深く理解し、常に個々の働きを学院総体の働きと照らして考えます。
- ▶ 社会的な妥当性を自他に問い、いつ開かれた環境を保持し、我々が提供する場の社会的価値を常に高めます。

※ 上記姿勢に立って、下記の道筋と切り口を重視した活動を展開します。

❖ 段階的な学修の道筋と求められる成果を以下の通り設定しています。

- ▶ 学院で学ぶ全ての者が、その学びの基礎として「キリスト教精神の理解」「人権問題の正確な知識の修得」「地域文化・歴史・世界情勢から地球環境も含めたグローバルな視野の養成」のための教育を、学院共通の理念に基づき、各発達段階において学修します。
- ▶ これにより、国際社会の一員として互いに支えあい共に生きるための理念と感覚を、豊かな教養と幅広い知識の修得を通じて身につけます。
- ▶ その上で更に、世界を舞台に活躍するための、研ぎ澄まされた国際感覚と、国際社会での活動・貢献に必要な能力を、深い専門知識・技能の修得を通じて身につけます。

❖ 具体的な活動展開の柱として、以下の「5つの切り口」を設定しています。

地域貢献

社会に生きる認識を持ち、その一員として積極的に参画し働きかけます。
諸活動の窓を社会に開き、知識と経験を社会で活用するための切り口です。

国際交流

多様な文化と出会い、互いの歴史・人格を尊重してこれを理解すると共に、交流を通じて自らの文化を伝え、更に異文化との比較を通して自らの文化を再認識します。
各々の違いを認めながらも、これを超えて様々な人と人類共通の理想基盤に立って深く交わり、より良い社会を形成していくための活動の切り口です。

職業教育

自己のあり方・生きる目標も含めて、社会に生きる力と意義「VOCATION」を探ります。
社会における自らの役割・使命の認識と自己を社会で結実させるための切り口です。

外国語教育

「行動する国際人の育成」をめざした「実践語学」を獲得し、異文化と交流して多様な価値観が理解できる能力を養成します。
出会いとコミュニケーションのためのツールとしての切り口です。

健康スポーツ振興

心身の健康を心がけて自律性を養成し、スポーツを通じて克己心・チームワーク等を学びます。
心身の鍛錬により自己の限界に挑戦し、自らの枠を広げるための切り口です。

4. **現代社会における理念展開の重要性**

(何故、今、改めて我々の使命・役割とその基本姿勢を再認識して訴えようとするのか)

今日、急激に進む政治・経済の国際化と科学・技術の進歩により人と物・情報・文化の交流が活発化し、これに伴う生活様式の変化や地球規模での社会・環境問題への関心の高まりは、我々人類全てが地球社会の一員として互いに影響を深めつつあることを現しています。

けれども、他方では依然として様々な対立・争いが続いていることも事実であり、それは即ち、世界の各地域で形成されてきた異文化に対する相互理解が未だ充分とは言えないということも示しております。そのために、国際化が進めば進むほど『国際誤解』が生まれてしまうという側面もまた存在しているわけです。

急速に進展するグローバル社会は、「世界の市民」であるために高度の専門知識や技能の修得を求めています。世界では様々な民族や国家、宗教・言語・文化・慣習の異なる人々がそれぞれの歴史を持ち問題を抱えて現代に暮らしており、この社会の中で共に生きるためには、それらについての知識と理解を前提とした市民レベルでの国際交流もますます必要になっていくことでしょう。

また異なった言語が使われる国際社会の中では、相手の主張に耳を傾け自らの主張を述べることにより、対等のコミュニケーションを成立させて行く能力を身につけなければなりません。そして、相手の思いを聴き自らの考えを伝える背景には、幅広い視野によって得られた知識や体験と、これに基づく物事の多面的かつ深い理解と洞察が必要になると考えます。

従って、そのような「世界の市民」として活躍するためには、知と経験で培われた高い人格と豊かな教養によって、人類共通の課題認識と自らの役割認識を踏まえた目標を定めることが最も重要なこととなります。そして、そのうえで、より深い専門的知識と語学力や情報処理能力・発信力等に支えられた確かな行動力が、その目標実現のため更に必要になってくるのです。

今なお多くの違い・隔たりがある中で互いの影響が強まるこの時代にこそ、単に個別の進歩のみを求めるのではなく、常に多様なあり方が存在し求められ、各々の特性が互いに交わり支え合い配慮し合って活かされるよう、全てのものに通底する「普遍的理念」「共通目標」の認識を深めることが、真の発展基盤として今後ますます重要になると私たちは考えます。

この認識に立ち、学院とそこで学ぶ者の全てが、「社会に貢献する」との強い自覚を持って歩み続け、それぞれが自らの「はたらき」を様々な形で社会に結実させてゆくことを私たちは目指しています。そのために学院は、その「橋渡しの場」として、今後も社会状況を的確に捉えつつ、高い理想の実現に向けた着実な教育・研究活動を、多様な取り組みを通じて更に強化し展開し続けます。そのような永続的かつ発展的「場」であり続けること。これこそが我々に求められる重要な使命(ミッション)であると考えるところであり、また、それが今この時期にこれを再認識し、改めて社会に示そうとする所以です。

． 基本構想 (Grand Vision)

理念に基づく使命認識と姿勢に沿って、以下の視点と展開方針のもとに目標実現に向けた取り組みの基本枠を示し、中長期ビジョンの「基本構想」を策定しました。

1. **ビジョン策定の視点** (我々に求められる在り方)

⚡ ビジョン策定にあたって、我々は自らの在り方を以下の基本視点から今一度見つめ直しています。

「建学の精神の具現化と社会資源としての私学の使命」を踏まえた視点
独自性を保ちつつ社会から期待される機能を果たす在り方を求めます。

「組織姿勢と個々の活動の一致」を踏まえた視点
「理念と行動」「目的と結果」の一致を計り、組織姿勢を個々の活動に反映し、各取組を組織活動として展開する在り方を求めます。

「内的・外的環境の現状と動向」を踏まえた視点
保有資源と外部状況を把握し、改善・強化により競争力と変化対応力を高める在り方を求めます。

各取組み・展開に対応可能な財政基盤・施設環境・組織体制を確保する視点
全体的視野で活用方針を調整し、有効に機能し得る資源として永続提供する在り方を求めます。

「説明責任」を踏まえた視点
活動の意義・妥当性・有効性を自他に問いつつ高める在り方を求めます。

2. **理念展開の基本方針** (あるべき姿への指針と課題の設定)

⚡ 我々の理念を具現展開し、あるべき姿に向かうための指針と課題を、以下の通り設定しています。

1 魅力ある学校づくりに向けて

- ▶ 各学校の学則に定める目的を具体的に如何なるプログラムでどのように実現するかについて、社会ニーズに照らして明らかにします。
- ▶ 各プログラムが建学の主旨たるキリスト教精神のもとに如何に集約され学院の独自性(教学展開の特徴)を現すか、社会に有為な存在として認識されるかを明確にします。



「建学精神・学則目的具現化」の認識 - キリスト教精神に基づく教育事業・活動の展開 -
普遍的理念・人類共通の目標としての「自由と愛の精神」「世界の市民の養成」

- ◆ 「地域貢献」
- ◆ 「国際交流」
- ◆ 「職業教育」(就職資格・進路指導)
- ◆ 「外国語教育」
- ◆ 「健康・スポーツ振興」

「相互の関連づけ・連携展開」による
「多様性への対応」と「学院としての総合展開」

<学部・学科・課程・コース等の再編、新設>
<キャリア育成> <入試政策、広報政策>等の展開に反映

2 実施基盤確保と取り組みの確かさの維持・展開のために

- ▶ 各プログラムを組織的取り組みとしての確に社会に伝え、必要とされる学校としての社会評価を得て学生を確保し、安定収入による財政基盤を維持して各プログラムの効果的实施に資する組織体制・諸制度・施設環境を整備します。
- ▶ 教育研究活動の永続的な展開のため、教育の質を落とさないコスト削減に向けて固定費過大の費用構造見直しや費用対効果点検等も加え、管理経費の抑制可能性を探ると共に資金の効果的配分に留意し、収支バランスを良好に維持して長期的視点での経営基盤強化に努めます。



「内部統一」の認識 - 組織姿勢と個々の活動間のロス回避 -

目標・方針と展開状況・結果の的確な相互発信・共通理解による効率化

- ◆ 「組織機能強化」 - 機能的活動体制の構築、各単位の有機的連携
- ◆ 「情報集約・共有」 - 課題・目標・経過・結果の把握と共通認識
- ◆ 「手段蓄積・活用」 - ノウハウ・経験の集まり・連携による効果的展開
- ◆ 「集中化」 - コア領域への集中による独自価値の提供、重点効果

「内外環境」の認識 - 課題の抽出と検討の指標 -

競争環境での比較点検と対処（状況・要請把握と変化に応じた対応展開）

- ◆ 「特徴の把握」 - 問題改善（弱点強化・再編転換）、長所の活用（発展・強調展開）
- ◆ 「即応性」 - 外的環境・ニーズ変化察知と対応
- ◆ 「柔軟性」 - 教育研究プロセス変更・人材活用の柔軟性

「財政基盤・施設環境・組織体制確保」の認識 - 永続性・費用対効果の意識 -

重点対応・新展開への備えと運用コストの共通認識

- ◆ 「ストックとフロー」 - 特定整備対策（弱点強化・発展展開）、収支均衡・効果的配分
- ◆ 「回復力」 - 想定外事態発生に際する迅速な対処、現場の自律対応力
< 集中化・即応性・柔軟性 + 安定性・余力の確保 >

「内外評価一致」の認識 - 法人・各学校の社会性・説明責任 -

社会から遊離せず自主自律を保つ（妥当性・有効性の保持）

- ◆ 「保身的・聖域的意識の排除」
- ◆ 「対外的機能不全の回避」
- ◆ 「情報開示・広報展開」

点検と評価のシステム

- ▶ 自己点検・評価、相互評価、外部評価
- ▶ PDCAサイクル

3. **目標実現への基本枠組** (目指すところに向けた取り組みの骨格)

※ 指針と課題に沿って我々が取り組むべき事柄に関して、基本的な枠組みを示しています。

【大学】

教育・研究改革

「教育力」を強化し、学生に「付加価値」をつけ、学生が自らの「存在価値」を認識することを通して真の「世界の市民」を養成します。

- ・ 社会変化と学習者の多様な需要に的確に対応します。(優秀な学生の輩出と全体のバリュー)
- ・ 本学の役割と機能を踏まえ個性・特色を明確にします。(5つの切り口・学部学科プロダクトの強化連携)
- ・ 学生対応と研究活動に向かう教職員の意識を高めて体制を強化し、教育・研究の質の向上をはかります。

新たな大学像の構築

南大阪最大規模の文系総合私立大学としての基盤を活かしつつ、社会ニーズに合った改組転換・新学部等の設置を具体検討します。

- ・ 現有資源の最大限活用で長所を強化・発展させ、直面する課題改善と新たな展開に繋がります。
- ・ 国際交流・地域貢献等を通じ、外部連携・外部資源も活用して強化・展開をはかります。
- ・ 南大阪地域大学コンソーシアムを主軸に、大学間連携の強化・充実をはかります。

学院としての総合化と志願者の確保

教育の一貫性・連携により育成效果を高めると共に、志願者の一定確保をはかります。

- ・ 高校および中学校等今後学院が設置する各学校との連携による総合展開を検討します。
- ・ 内部進学による安定的定員確保と活力ある学院イメージの強化を全体の志願者増に繋がります。

【高校】

教育改革

- ・ 順調に展開している国際コースについて、更なる充実・発展をはかります。
- ・ 標準コース・英数コースの学力伸張に努め、進学実績の向上をはかります。
- ・ スポーツ振興に取り組み、心身の健全な育成をはかります。

新たな高等学校像の構築

- ・ 中学校の設置により国際教育の力取り入れた中高一貫教育を推進します。

学院としての総合化と志願者の確保

- ・ 学院としての総合化も視野に(中)高大連携の取り組みを強化します。
- ・ 競合環境を的確に捉えて対応検討し、募集定員の確保と志願者拡大をはかります。

【法人】

- 学院としての総合展開と活動基盤の整備 -

幼稚園・小学校・中学校等の設置による高校・大学との総合展開を検討します。

活動基盤としての組織の在り方に関する基本的な共通認識を確立します。

柔軟で集約力のある体制、機能を有効に果たすシステムとしての権限と責任・諸制度を整備します。

活動意義を訴え妥当性・有効性を高めるため、内外に開かれた組織風土・体制を確立します。

中長期戦略に基づく特定整備対策と事業展開コストの共通認識・理解を確立します。

学生数減少による加齢悪化環境下にも戦略的整備展開可能な財務基盤を確立します。

． 取り組み計画 (Approach Plan)

基本構想による指針・課題を踏まえた枠組みに沿って目標実現に向かうため、現時点で着手・検討されている取り組み項目と各概要を、別添の「取り組み計画一覧」ならびに「各取組計画書」で示します。

1. **大学における取り組み**

- 多様性への対応と特色強化、教育・研究の充実と新たな展開を求めて -

▶ 「現時点での取り組み計画一覧（大学）」を参照

2. **高等学校における取り組み**

- 社会に生きる意義を見出し目指すところに至る力を養う教育の充実と展開を求めて -

▶ 「現時点での取り組み計画一覧（高校）」を参照

3. **法人の取り組み**

- 各計画推進を支える基盤整備と総合展開の取り組み -

▶ 「現時点での取り組み計画一覧（法人）」を参照

． ビジョン実現に向かって

取り組み推進姿勢と経営目標

- 学院総体としての総合展開と持続性・発展性の確保 -

ビジョン実現に向かうにあたっては、財務状況を良好に保ちつつ、各取組の進捗状況を常に学院全体の視点から点検・把握し、その効果を評価したうえで新たな課題への対応や更なる効果的展開に繋げることが重要となります。

これに対して、経営目標としては「2014 年度を目標時点に定め、帰属収支差額比率 5 % を最低確保する」と設定し、その実現に向けた中期経営計画を策定します。また中長期ビジョンに関わる計画推進体制を強化して、各取り組み実施に関わる支援・促進と所要の調整を継続してはかってゆきます。これにより、ビジョン実現のための総合的な取り組み展開を推進して魅力ある学校づくりを進めると共に、社会的資源としての教育・研究の場を持続的・発展的に提供するための財務基盤を確保し、より確かな理念具現化への歩みを進めてまいります。

ついでには、学院構成員が共通の認識に立ち意欲と不断の努力をもって目標実現に向かうことはもとより、本学院の理念とこれに基づく諸活動に期待と関心を寄せる多くの方々からも幅広い支援と提言を得て、これらの取り組みが社会全体にも有為なものとして結実することを目指してゆく所存です。

以上、今般のビジョン提示に際して、着実に学院独自の理念を具現展開し、その使命を果たすための決意として付言いたします。